

6 学生企画



環境報告書 学生編集委員企画

東海国立大学機構の環境報告書の編集には、多くの学生編集委員が関わっています。研究者にインタビューをしてその内容を記事として執筆したり、他大学を含めた学生同士で環境問題について語り合う対談企画を行うなどの学生間交流を行い、その内容を記事にまとめるなど、さまざまな形で環境報告書の編集に携わっています。

環境報告書を東海国立大学機構として発行するのも4年目となり、岐阜大学と名古屋大学の学生編集委員同士の交流をきっかけに、新たに「キャンパス生態系マッププロジェクト」、「環境意識に関する学生アンケート」の二つの企画が立ち上がりました。いずれも、各大学の環境サークルの活動や、環境報告書の編集作業などからヒントを得て、学生編集委員が自主的に企画したものです。本報告書では、これらの二つの企画について紹介します。



キャンパス生態系マッププロジェクト



中央図書館前の榊並木、理系地区の二次林……名古屋市の風致地区として認められる名古屋大学東山キャンパスには、学生の間近にある植栽から広大な緑地まで、様々なレベルで緑が残されています。名古屋大学キャンパス生態系マッププロジェクトは、2022年から岐阜大学の環境サークルG-ametが進めている岐阜大学キャンパス植物マッププロジェクト（▶ [関連記事 岐阜大学環境サークルG-amet p.53](#)）を参考に、名古屋大学環境サークルSong of Earthの学生主体で2024年4月にスタートしました。このプロジェクトは、環境報告書の学生編集委員としての活動を通じて始ま

った岐阜大学と名古屋大学の環境サークル同士の交流がきっかけとなり、名古屋大学でもキャンパスの緑をわかりやすく伝えるキャンパスの緑が親しみやすくなるような植物マップを作成したいという想いで活動を開始しました。

岐阜大学のプロジェクトでは、これまでにキャンパスの樹木を紹介する冊子「ミドリイロノジンセイ」を作成し、学内外の方を対象としたイベントを行ったり、Instagramで学内の見頃の植物を紹介したりしています。これらの活動を参考にしながら、岐阜大学と名古屋大学の学生同士で樹木の記録の仕方や活動の進め方などの情報交換を行いました。

植物マップ作成にあたり、グリーンフロント研究所株式会社の「ふるさと・フォト・メモリシステム」を利用させて頂いています。このシステムでは、スマートフォンで写真を撮って専用サイトにアップロードするだけで、樹種や位置情報をマップに記録することができます。本プロジェクトでは、システムを利用させていただく代わりに、テストモニターとして意見をフィードバックしています。5月には、岐阜大学・名古屋大学のメンバーとグリーンフロント研究所株式会社の担当者の方でオンライン打ち合わせを行い、両大学で今後どのようにマップを作成していくか話し合いました。

7月には、名古屋大学東山キャンパスでシステムの使い方をレクチャーしてもらいながら、樹木の調査を行いました。学生は名古屋大学から6名、岐阜大学から3名が参加しました。農学部や応用生物科学部だけでなく、経済学部、医学部などのメンバーも参加し、年齢や専攻に関わらず、お互いに樹木の名前を教え合いながら進めました。約1時間の調査で、約20種60個体の樹木を同定し、システムを利用することで、樹木の記録が容易になることを実感しました。一方で、スマホのGPSの精度に限界があるという課題も明らかになり、グリーンフロント研究所株式会社と位置情報をどう補正するか模索しています。

調査を進める中では、ただ樹種を入力するだけでなく、樹木図鑑を片手に葉と睨めっこしたり、面白い花や虫を見つけたら他のメンバーを呼んで観察したりと、コミュニケーションを楽しみました。中には初対面のメンバーもいたのですが、調査を通じて、全員が打ち解けられたように感じます。生き物を見て楽しいと思う私たちの心が、マップ作成を通じて多くの人に伝わればと思っています。

名古屋大学のプロジェクトでは、岐阜大学に倣って植物マップを冊子形式で作成・頒布するほか、東山・大幸・鶴舞の3キャンパスの緑を比較したり、マップをWebで公開したりするなど、名古屋大学ならではの視点を盛り込んだ企画を立てています。岐阜大学では、岐阜大学キャンパスの植物を紹介する冊子「ミドリイロノジンセイ」をより分かりやすくなるようアップデートしていきたいと思っています。楽しみにしていただければと思います。



プロジェクトメンバー

岐阜大学 堀部真生 上井ゆり子 清田暖乃 前田佳穂 澤村葵
名古屋大学 中島菜里 中村拓海 石原彩香 土方愛梨 川瀬菊清貴
近藤穂佳 鬼頭秀和 奥村友為 榮野あゆみ



岐阜大学・名古屋大学の学生の環境意識に関するアンケート企画

はじめに

東海国立大学機構の環境報告書は、学生や高校生など若い人に読んでもらうことを意識して作成しています。岐阜大学、名古屋大学の学生も環境報告書の編集委員の一員として参画し、若い世代の読者が読みたくなるような紙面づくりを意識して作成しています。一方で、実際に学生に読んでもらっているのか、読みたいと思う内容を掲載出来ているのかという疑問がわき、環境報告書2023の学生編集委員の間で、「是非学生にアンケートを取ってみたい」という企画が立ち上がりました。アンケートの目的は、岐阜大学、名古屋大学の学生の環境に対する意識の現状調査と、その向上のために環境報告書が果たすことのできる役割を模索することとしました。学生編集委員の間でアンケートの質問内容を練り、2024年度春にアンケート調査を実施することができました。以下に、今回のアンケートの結果と考察、現時点での環境報告書への提言をまとめました。

基本データ

- 回答者数 岐阜大学 **514** 名古屋大学 **173**
- 回収方法 Webフォームを用いたアンケートを実施
- 実施時期 2024年4月～6月

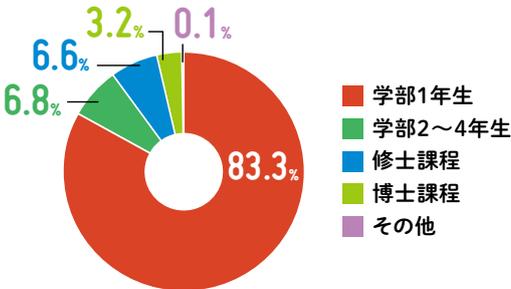
岐阜大学	入学式でのウェルカムセレモニー及び初年次セミナーほかでアンケートへの協力依頼
名古屋大学	大学の教務システムを利用した全学生への一斉メール配信によるアンケートへの協力依頼

企画メンバー
 岐阜大学 加藤大翔 北村美希 石原美優
 名古屋大学 中村拓海 尾関康平 森上葉奈



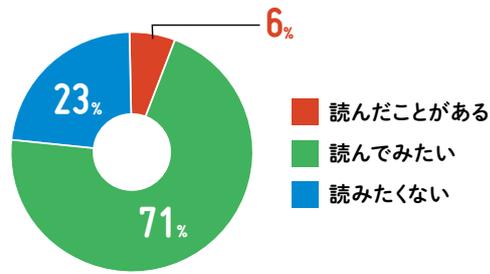
アンケートの結果と考察

Q1 学年を教えてください。



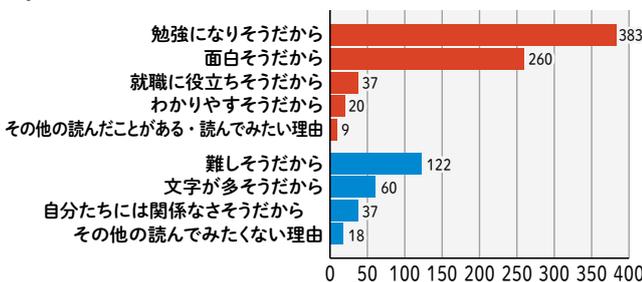
アンケートの回答者は、岐阜大学では大半が1年生、名古屋大学では2年生以上も回答していた。また、Q2以降の質問について、学年や大学の違いによる回答の傾向の違いはほとんど見られなかった。

Q2 あなたは環境報告書を読んだことがありますか？



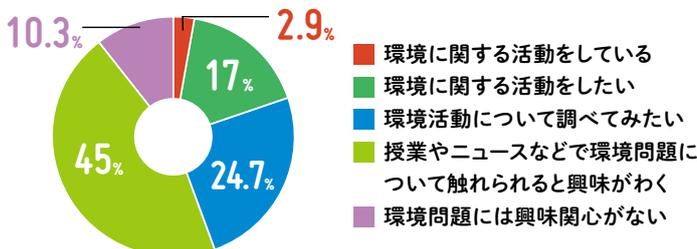
読んでみたいと回答した人が7割近くいる中で、読んだことがあると回答した人は1割にも満たなかった。興味は持ってもらえているようなので、学生の出入りの多い建物のエントランスに置くなどアクセスのしやすさを改善すれば、もっと多くの人に手に取ってもらえるのではないかと。

Q3 あなたがQ2.でそう選んだ理由を教えてください。(複数選択)



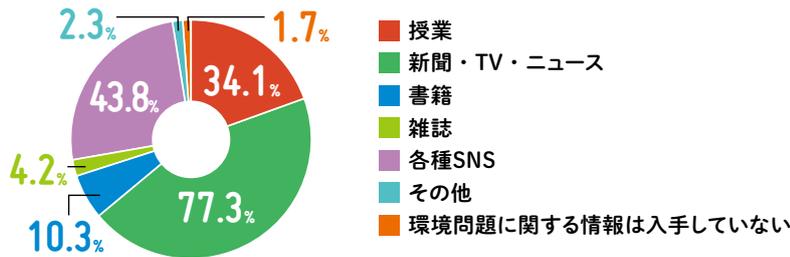
読んでみたい理由として、「勉強になりそうだから」が、一番割合が多かった。環境報告書の作成には学生も携わることができると強調すると、環境について勉強したい学生の興味を引けるのではないかと。また、SDGsの条項には具体的にどんなことが書いてあるのか要約したり、プラスチック問題やエネルギー問題などの日本の現状を最前線で研究する人に何った記事を書いたり、環境に関する研究論文を噛み砕いて説明した特集を組んだりすると面白いのではないかと。

Q4 環境問題への興味について、あなたの今の状況に当てはまるものを選んでください。



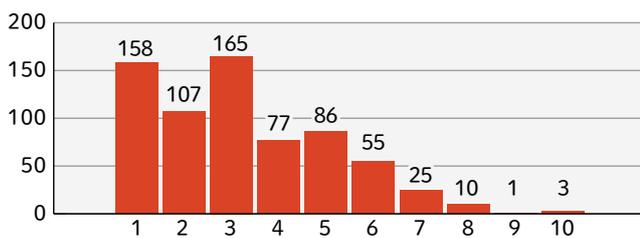
環境に関する活動をしたと考えている学生が17%近くいることがわかった。環境に関する情報を知りたいだけでなく、自分からなにか行動したいとより積極的な意見を持っている人が意外に多い印象だった。環境に関する活動と言っても、ゴミ拾いや緑化活動、あるいはインタビュー活動など多岐にわたるので、どんな活動に興味を持っているのかさらに調査したい。

Q5 あなたは普段どのような媒体から環境問題に関する情報を入手していますか？（複数選択）



「新聞・TV・ニュース」と「各種SNS」がやはり多かった。これらの既に親しみ深いメディアと絡めた記事を環境報告書に盛り込めば、より読んでもらえる機会が増えるかもしれない。

Q6 あなたは大学が行っている環境問題に対する取組についてどの程度知っていますか？ 10を最高(具体的に知っている)、1を最低(全く知らない)として、その程度を回答してください。



環境問題について大学が行っている活動を知っている度合いは、学年が上がるにつれて若干高まる傾向にあるものの、全体では半分の5より少ない人が大半だった。今回のアンケートでは、学部1年生の回答者が多いことを考えると当然の結果ではあるが、大学の取り組みに焦点をあてて構成している環境報告書の意義は確かにあると確認ができた。

Q7 あなたは大学での環境問題に関して、どのようなことを知りたいですか？（複数選択）



最も多かった回答は「具体的な取組事例」であり、既に環境報告書に盛り込んでいる内容なので、ニーズに答えられているのではないかと感じた。一方で、2、3番目に多かった「各種目標を達成できているか」「各種データ」については、例えば名古屋大学で近年課題になった電気代節約に対する取組について具体的にどれくらい使用電量を削減できたかなど、よりわかりやすく伝える工夫が必要ではないかと思った。

まとめと今後の課題

環境報告書は、環境問題の解決に取り組む研究者の話、岐阜大学や名古屋大学で活動する学生の紹介など具体的な内容を掲載しており、また、学生自身も参画して作成できるという特徴を持ち、これらの要素は今回のアンケートから判明したニーズを満たす内容になっていることが確認できた。一方で、それでも読んだことがある割合が1割にも満たず、知名度の低さが浮き彫りになった。今後は、いかにして多くの人に存在を知ってもらい、手に取ってもらうかの広報活動が課題であり、今回のアンケートも広報活動として役に立ったのではないかと感じている。

また、環境に関する取組やデータ等の情報を知りたいだけでなく、自分から何か行動したいというより積極的な意見を持っている人が思った以上に多いことが分かった。本アンケートを継続的に実施して、どんな活動に繋がれそうかなどについても是非調査していきたい。

おわりに

本企画ではどちらの大学でも環境問題に興味はあるが活動するまでには至れない、という学生が相当数いるという現状が浮き彫りとなった。一方で、環境報告書はこのような学生のニーズをある程度満たした内容になっているとも読み取れる。以上のことから、環境報告書のことを学生に知ってもらうことができれば、環境報告書は学生の環境に対する意識を向上させたり、環境活動のきっかけをつくらしたりするのに十分な冊子となるのではないかと考えられる。だからこそ、アンケートや生態系マップ等の学生企画を含め、学生に周知する機会を多く設けることを重点においた、企画、紙面づくりを意識していきたいと思う。